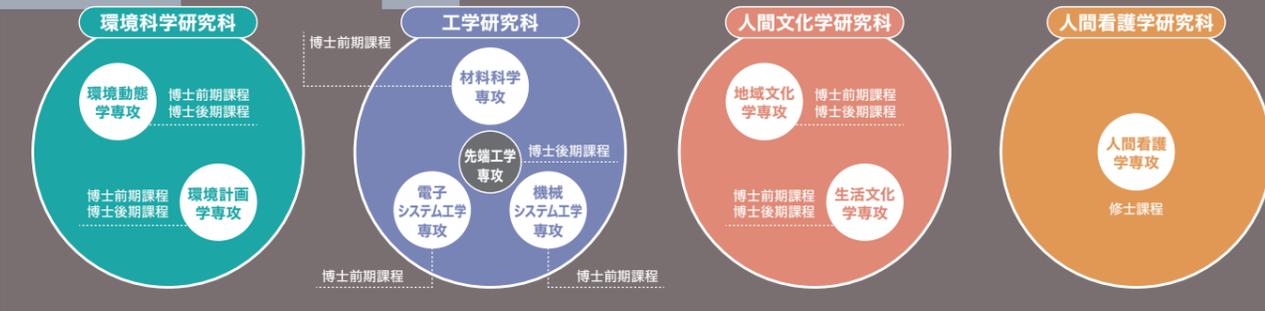


大学院



滋賀県立大学では、さらに学問を深めたい、もっと高度な研究に取り組みたいという声に応えるため、大学院を設置しています。



実習調査船を使った琵琶湖生態系の調査



3次元距離センサを搭載した知的電動いす



伝統的建造物の調査 (石川ゼミ)



ゼミの風景 (生涯健康看護学部門)

環境科学研究科 Graduate School of Environmental Science

環境動態学専攻

- Point 1** 琵琶湖生態系から自然環境の保全と管理について学ぶ
- Point 2** 持続可能な社会のための基礎研究
- Point 3** 遺伝子から景観まで幅広いレンジで学ぶ



本専攻では、自然生態系が人為的攪乱や環境変動に対してどのように応答するのか追求します。琵琶湖とその周辺環境の生態系をモデルとし、物質や生物群集の動態を調べることで、自然環境の保全と管理のための基礎的知見を集積します。一方で、自然が私たちに与えてくれる恩恵、いわゆる生態系サービスとしての農業のあり方について研究することで持続可能な社会の構築に貢献するため努力しています。これらの活動を通して、自然生態系の保全、あるいは持続可能な生物生産や資源利用に関して提言のできる人材の育成をめざします。

環境計画学専攻

- Point 1** 多様な分野の総合性と深い専門性
- Point 2** フィールドでの実践をベースに
- Point 3** 高度なプロフェッションの養成



本専攻は、環境意匠研究部門と地域環境経営研究部門からなります。環境意匠研究部門では、自然環境と共生する持続可能な社会環境の創出をめざし、安全で快適な生活空間・建築空間・都市空間を創造するための造形論・意匠論・計画論・技術論を追究しています。地域環境経営研究部門では、持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方を探るとともに、それを実現するための計画とその運用について教育研究を行っています。

工学研究科 Graduate School of Engineering

材料科学専攻【博士前期課程】

- Point 1** 先端分野で国際的に活躍する教員集団が指導
- Point 2** 様々な企業との共同研究による材料研究
- Point 3** 国内外の学術研究会における大学院生の発表



本専攻では、21世紀の高度化した工業技術の進展に貢献でき、地球環境に調和した先端材料の開発と研究を目指し、無機材料から有機材料までの各種材料に関する幅広い知識と開発能力を有し、さらに高度に複合化した材料にも対応できる人材を養成しています。本専攻では、無機材料部門と有機材料部門にそれぞれ3研究分野を置き、互いに連携しながら材料科学ならびにその関連分野について高度な知識の習得と深い理解、またその応用を図るための教育研究を行っています。

機械システム工学専攻【博士前期課程】

- Point 1** 深い洞察力に基づく基礎研究の重視
- Point 2** 新しい発想からの開発・研究へのあくなき探求心の養成
- Point 3** 社会に貢献する技術者・研究者の自覚と行動力の涵養



本専攻では、機械をシステムととらえ、機能の多様化や知能化を電子制御技術などの活用によって実現することを目指すとともに、人間と機械を取り巻く地球環境への影響を考慮した機械システムのあり方を検討するためにエネルギーや材料、加工技術を含めた広い視野から研究・教育を実践しています。このため、分野横断的な教育・研究が行えるように、エネルギーと動力、流体工学、材料力学、機械ダイナミクス、メカトロニクス、生産システムの各研究分野から構成されています。

電子システム工学専攻【博士前期課程】

- Point 1** 電気・電子・情報技術に関する高度な専門知識の習得
- Point 2** 産業界等の各分野において指導的役割を果たせる人材の育成
- Point 3** 持続可能な開発につながる電子システムの創成



本専攻では、電気・電子・情報システムの視点から、幅広い基礎知識を含む高度な専門知識を習得するとともに、顕在化している多岐にわたる環境問題が解決でき、ひいては持続可能な開発につながる電子システムおよびその関連システム・要素が創成できる有為の人材を育成します。このために、電子工学部門、電子応用部門および情報部門を置き、有機的に互いに連携しながら、工学上の諸問題に関して電子システムの立場から解を導き出すことができ、社会経済において指導的役割を果たせるような人が育つ教育研究を実践します。

先端工学専攻【博士後期課程】

大学院博士後期課程では、博士前期課程における教育研究の一層の深化を図るために、博士前期課程の全ての専攻を融合した先端工学専攻を置いています。本専攻では、研究者相互の知的融合や協同を通じて、高度な学問的見識や研究開発能力に加えて豊かな人間性をも兼ね備えた人材の養成を図り、また、人間と環境に適した科学技術創出と応用のための独創的研究を推進し、それらの産業への応用を目指しています。

県大生
OB・OG
Interview

社会に出て通用する変革力とは？ 人財とは？【大学院編】

1999年度 花園大学文学部史学科卒業
2001年度 滋賀県立大学人間文化学研究所地域文化学専攻修了

■東京国立博物館 調査研究課 東洋室 主任研究員

市元 壘さん

略歴：2002年2月、高級進修生として中国吉林대에留学。翌年帰国し、草津市教育委員会文化財保護課に勤務。同年8月、九州国立博物館(仮称)設立準備室に採用される。2005年、九州国立博物館に移行。2016年、東京国立博物館に異動。2019年3月には自身の手がけた「図版目録 東洋古鏡篇」が東博から刊行される。同年4月から学習院大学非常勤講師を兼ねる。



博物館はよりよい社会をつくるためのヒントの宝庫 その価値を広く伝えていける学芸員に

菅谷先生と出会い、どっぷりと考古学の世界へ

中学生のころ発掘調査に興味を持ち、高校での民博見学をきっかけに「考古学を学んで博物館で働く」という将来のイメージがひとつの流れになりました。卒業後は花園大学の史学科に進学。非常勤で講義を行っていた滋賀県大の菅谷文則先生に出会います。先生のお声かけで参加した日中共同の発掘調査をきっかけに、中国の考古学にのめり込んでいきました。当時は、古墳時代を中心に日本と朝鮮半島との関係について研究していましたが、菅谷先生のもとでさらに深めたいと考えて滋賀県大の大学院へ。

身についたのは多様性への理解と問題解決力

考古学研究室で机を並べた仲間たちは、テーマこそ異なるものの歴史のうえでつながっており、いろいろな情報や刺激をもらいました。考古学だけに固まることなく、様々な専門に精通する人となりに接してきたことで、世界を広げるための準備運動ができたと感じています。研究に息詰まると先生や仲間と話し

解決の糸口を見つめました。いまでもいろんな壁にぶつかりますが、同僚や上司と話し合うことで道は拓けていきます。

高級進修生として中国吉林대에留学

修士課程修了後は、1年と期限を決めて中国に留学しました。独学の中国語が役に立たず、半年は語学に集中。後半は発掘調査への参加や専門分野の遺跡踏査など、当初の目的は達成することができました。現地へ行けば、調査報告書だけではわからないことが見えてきます。行動を通じて実証していく、その大切さも先生や先輩から学びました。

九州国立博物館から始まった学芸員生活

帰国後、草津市文化財保護課の非常勤職員として働いていた時に、九州国立博物館設立準備室の採用試験を受験。同年8月から正規職員として東アジアの考古学部門で学芸員を務めることになりました。やがて人事異動で東京国立博物館へ。

学芸員の仕事は、資料の収集や整理から特別展の企画、運営まで多岐にわたります。印象に残っているのは、2019年3月の刊行まで、2年にわたって担当した「図版目録 東洋古鏡篇」の編纂です。東博が収蔵している日本伝来、出土以外の鏡と関係資料558点すべてを撮影し、作製された時代などを調べて一冊にまとめました。地道な仕事ですが、資料を資源化して公開し、未来に役立ててもらうことも博物館の大切な役割です。

博物館は多様性を学ぶ場であることを伝えていきたい

近年は世界が「多様性」に注目しています。博物館はいろんな時代や地域などに目を向けられる場です。歴史を知るだけではなく、いまの社会をより良い方向につけていくためのヒントを探ってもらえることが存在価値のひとつ。今後は、それを明確に打ち出せるような事業に関わっていきたくと考えています。いろんな専門知識や価値観を持った人々、つまり多様性を感じながら学ぶことも滋賀県大の魅力。きっと世界へ飛び出すために欠かせない資質になるはず。自分の可能性を伸ばそうとすれば伸ばすことができる、それが滋賀県立大学という学びの場です。

人間文化科学研究科 Graduate School of Human Cultures

地域文化学専攻

- Point 1** 地域社会に残る文化資源の保存と再生、活用への取り組み
- Point 2** 地域社会の歴史から現状まで幅広いレンジで学ぶ
- Point 3** 地域社会から国際的に情報発信できる人材



本専攻では、日本・歴史文化論部門、日本・現代地域論部門、国際文化論部門の三部門を設け、グローバル化に適合する地域社会とはいかにあるべきかを、歴史的・文化的・社会的観点から追究する教育研究を展開します。日本・歴史文化論部門では、歴史学・考古学・美術史学などを基盤とし、近江や日本とその隣接地域の地域社会の構造や文化について教育研究を行います。日本・現代地域論部門では、社会学・地理学・民俗学・保存修景学・文化人類学・地域計画学などを基盤とし、近江や日本、その隣接地域の地域社会の構造や社会意識、ならびに地域活性化をはかるための方法について教育研究を行います。国際文化論部門では、文化人類学・近現代史・思想史・文学・言語学などの学問分野を基盤とし、アジア、欧米地域の文化および言語を対象とした研究をすすめ、世界に向けて情報発信できる人材育成を目的とした教育を行います。

生活文化学専攻

- Point 1** 専門分野の第一線で活躍する優れた教育研究スタッフ
- Point 2** 最先端の研究に取り組める研究環境
- Point 3** 実験・実習を重視したきめ細やかな指導体制



本専攻においては、生活科学と人間科学の立場からライフスタイルを取り扱います。人間のライフサイクル全般を通した生活と社会とのかかわりを、生活デザイン、健康と栄養、人間関係の視点から根底的に見直し、真に充足した健康で快適な生活文化と生活環境とを生み出すための教育研究を展開します。このため、生活デザイン部門(生活デザイン論研究部門)、健康栄養部門(健康栄養研究部門)、人間関係部門(人間関係論研究部門)を設置しています。

人間看護学研究科 Graduate School of Human Nursing

人間看護学専攻

- Point 1** 実践活動と研究活動の両立をサポートする教育研究スタッフ
- Point 2** 実践活動を基盤とした研究活動の実施
- Point 3** 地域においてリーダーシップのとれる人材・高度な専門職の養成



本研究科は、看護学に関する高度な専門的知識・技能と高潔な倫理観をもち、人々の健康と安寧に貢献できる人材を育成します。このため、4部門3コースを開設しています。

- ①基盤看護学部門(研究コース)
- ②生涯健康看護学部門(研究コース)
- ③高度実践看護学部門(専門看護学教育コース;慢性疾患看護学分野および在宅看護分野)
- ④助産学部門(助産学教育コース)

を設け、多様なニーズを持つ人々の生活や社会状況を深く理解し、実践の科学として看護を探究する力を養っていきます。

